

2013	12月25日	大学3年	付き合って1年	24	観覧車
2013	12月27日	大学3年		25	洗濯物
2014	1月某日	大学3年		26	雪とD&Dとピザ
2014	1月終わり	大学3年		27	ケーキ
2014	2月7日	大学3年		28	ベッド
2014	3月後半	大学4年		29	花見
2014	4月中頃	大学4年		30	ロッククライム
2014	5月某日	大学4年		31	カラオケ
2014	6月某日	大学4年		32	セルフタイマー
2014	6月某日	大学4年		33	釣り堀
2014	8月某日	大学4年		34	温泉卓球
2014	8月終わり	大学4年		35	花火
2014	10月某日	大学4年		36	深爪
2014	12月27日	大学4年	付き合って2年	37	卒業旅行
2015	1月某日	大学4年		38	引っ越し
2015	3月18日	社会人1年	同棲開始	39	筑前煮
2015	5月30日	社会人1年		40	トランプ
2015	6月某日	社会人1年		41	コンビニの帰り道
2015	7月某日	社会人1年		42	永野さんと初対面
2015	12月初旬	社会人1年	付き合って3年	43	コヒー
2015	12月27日	社会人1年		44	本音
2016	2月某日	社会人1年	同棲して1年	45	三年目の浮気
2016	3月18日	社会人1年		46	もう一度動物園へ
2016	5月某日	社会人1年		47	最後の電話
2016	5月中旬	社会人2年		48	写真散歩
2016	6月某日	社会人2年		49	言い訳
2016	7月某日	社会人2年		50	汚い海
2016	8月某日	社会人2年		51	お酒
2016	9月初め	社会人2年		52	一人のジェンガ
2016	9月終わり	社会人2年		53	ピロートーク
2016	10月某日	社会人2年		54	ニューヨークの幻
2016	10月某日	社会人2年		55	手紙
2016	10月13日	社会人2年	別れる		

*赤で書かれたシーンはカットされたものになります。台本には書かれていないためご注意ください

・長いお別れ

静かな冬の朝のような青白い明かりが冬子と秀一郎の部屋を照らしている
部屋には誰もいない
どこからか静かに波の音が聞こえる

・プロローグ

二人の部屋。部屋の真ん中にはジェンガが積まれている。ジェンガの前に座っている冬子と秀一郎
映像が流れる。
冬子はジェンガを一つ取り、上に重ねる。秀一郎はそれを静かに見ている

・汚い海

防波堤
冬子、傘をさし防波堤の先に立っている
その少し後ろ、冬子の背中を見る秀一郎
辺りは灰色がかっていて、二人の他に人はいない
コンクリートを打つ波の音と傘に当たる雨の音だけ鳴っている
二人とも静かに海を見ている
重苦しい間
と、冬子が口を開く

冬子 荒れてるね
秀一郎 台風きてるからね

冬子、少し考えて

冬子 最近そういうの多いよね
秀一郎 そうなのって？
冬子 適当な返事
秀一郎 そう？ つか適当じゃなくない？
冬子 別にいいんだけどさ
秀一郎 何怒ってるの？
冬子 別に怒ってないよ

二人、黙る。言いようのない間が流れる

秀一郎 悪いとは思ってるよ
冬子 何を？
秀一郎 いや、最近仕事とか忙しくてあんまり喋れてないなあって
冬子 別にいいよ
秀一郎 そういって怒ってるんじゃないの？
冬子 だから怒ってないって
秀一郎 そっか

間

秀一郎 付き合って三年だっけ？

冬子、答えずに海を見ている。長い間

冬子 あたしさ、

秀一郎 ん？

冬子 海って、もっと綺麗だと思ってたんだよね

秀一郎 そう？

冬子 地元に海なかったから、子供の頃とか海見たことなくて。なんか綺麗なイメージだったんだよね、海って。でも、実際はほとんど灰色とか変な緑色してて、生き物みたいな匂いして気持ち悪いし。なんかベタベタするしさ。あんまりいいことないよね

秀一郎 (適当な返事)

冬子、また黙って海を見つめる。短い間

秀一郎 沖繩とかいく？ あっちの方は綺麗でしょ

冬子 行かない

秀一郎 そっか

冬子 休み取れないし

秀一郎 そうだね

冬子 別に綺麗な海が見たいわけじゃないし

秀一郎 どういうこと？

冬子 そのままだの意味。別に汚くてもいいことなくてもいいってこと

秀一郎 (適当な返事)

冬子 どうだろ。わかんない。嘘言ったかも。本当は綺麗な方がいいし、いいとこば

秀一郎 (聞き取れずに) 何？

冬子 まあ、現実はあるわけにもいかないよね

秀一郎 なんか悩んでる？

冬子 いや、それっぽいこと言っただけ

秀一郎 本当に？

冬子 うん。雰囲気で喋った

秀一郎 そっか

長い間。波の音と雨の音だけが響く

秀一郎 今日はカメラ持っていないの？

冬子 忘れた

秀一郎 珍しいね

冬子 毎日仕事で撮ってるし。たまには休んでもいいでしょ

秀一郎 そうだね

二人、また黙って海を見つめる

冬子 このまま波がどんどん高くなったら流されちゃったりするのかな？
秀一郎 どういうこと？

冬子 台風きてるし、実際危ないのかなと思って
秀一郎 そういうこともあるかもね
冬子 そっか

短い間

冬子 雨強くなってきたね
秀一郎 うん
冬子 帰ろっか
秀一郎 もういいの？
冬子 うん。もういい
秀一郎 そう
冬子 あ、そうだ
秀一郎 なに？
冬子 海鮮丼食べて帰ろうよ

波の音

二人、去る

・二人のジェンガ

秀一郎の部屋

蟬の音

ジェンガの前に座る冬子。それを横で見る秀一郎
楽しそうな空気が二人を包んでいる

冬子 あたしの才能を見て欲しい
秀一郎 わかったよ
冬子 びっくりするよ
秀一郎 そんなに？
冬子 子供の頃ずっと一人でやってたから
秀一郎 寂しいー
冬子 うるさい

冬子ギリギリを攻める

抜いたジェンガを見つめる

・永野さんと初対面

とある居酒屋

冬子と永野が向かい合って座っている
平日のせいかそこまで賑わってはいない
必要以上に威勢のいい店員の声が奥から聞こえる
永野、自分の前に置かれた焼酎を一口飲む
つられて冬子も自分の酒を飲む

永野 ごめんね、急に呼んじゃって
冬子 いえ、ちょうど仕事終わりだったんで

永野 どうしても橋本くんの彼女見なくなっちゃって
冬子 あの人、ちゃんと仕事してますか？
永野 それなりかな（笑）でも、頑張ってるよ
冬子 そうですか
永野 遅いね
冬子 え？
永野 橋本くん
冬子 ああ。トイレ長いんですよ
永野 うわー
冬子 え、なんですか？
永野 なんか今のいいね
冬子 どころか？
永野 熟年のカップルって感じた
冬子 そうですか？
永野 うん。なんでも知ってるって感じ
冬子 まあ、もう三年くらい一緒にいるんで
永野 一緒に暮らしてるんだっけ？
冬子 はい。今年から
永野 じゃあもう結婚だ
冬子 いやーどうなんですかね？
永野 しないの？
冬子 向こうもこっちもまだ仕事始めたばかりなんで。どうなのでしょう？

永野、グラスの氷を指で回す

永野 いいなあ。私も結婚とかで悩みたい
冬子 彼氏さんとかいるんですか？
永野 いるけど、もうほとんど終わってる
冬子 そうなんですね
永野 彼氏、転勤で岐阜行っちゃったんだよね。岐阜だよ？ 岐阜。遠くない？
冬子 岐阜は遠いですね
永野 絶対向こうで女作ってるんだよ。最悪
冬子 そうなんですか？
永野 冬子ちゃんも気をつけないとダメだよ？
冬子 浮気ですか？
永野 それもあるけど、うちの会社転勤とかよくあるから。独身の男子は特に
冬子 ああ
永野 遠恋とか大丈夫？
冬子 どうなんでしょう？ 考えたことないです
永野 辛いよ。遠恋は。だって遠いもん
冬子 はあ
永野 遠いってことは会えないってことだからね。会えないってことはセックスでき
冬子 はないってことだよ。最 悪
はあ
永野 大丈夫？ ちゃんと危機感持ってる？
冬子 まあ。でも、うちはそこはそんなに心配してないっていうか……
永野 そうなの？ なに？ レス？
冬子 いや違いますけど。でも、最近はそんなにしてないですね

永野　　なんでー？　せつかく近くににいるのに。じゃんじゃんしなよ。じゃんじゃん
冬子　（苦笑）
永野　　なんでー？

・汚い海

冬子　このまま波がどんどん高くなったら流されちゃったりするのかな？
秀一郎　どうということ？

・名前の呼び方

冬子の部屋

冬子と秀一郎がローテーブルを挟んで、向かい合っている
秀一郎、少し緊張した面持ち

秀一郎　もう付き合って一週間くらいたっちゃいましたけど、やっぱりこれから付き合
冬子　うん
秀一郎　だから俺は冬ちゃんでもいいと思うんだよね。

冬子　普通付き合ったら呼び捨てなんじゃない？

秀一郎　冬子？

冬子　冬子

秀一郎　なんか無理に威厳出そうとしてる感じがする

冬子　威厳出しなよ

秀一郎　無理でしょ

冬子　だってあたしたちそんな可愛い感じのカップルじゃないでしょ

秀一郎　何、可愛い感じのカップルって？

冬子　いるじゃん。ペアグッズとか推奨してるタイプの人たち。ああいう感じじゃな
いでしょ

秀一郎　ああ。まあ、それは恥ずかしいけど

冬子　ね、恥ずかしい。あたし冬ちゃんってキャラじゃないし

秀一郎　俺だって秀ちゃんってキャラじゃないよ。長男だし

冬子　秀ちゃんは秀ちゃんだよ。秀ちゃんっぽい

秀一郎　冬ちゃんだって冬ちゃんっぽいって

冬子　どこが？　そんなに可愛くないよ

秀一郎　可愛いよ

冬子　可愛くないから

秀一郎　可愛いって

冬子　恥ずかしいから

秀一郎　はい。俺の勝ち

冬子　はあ？

秀一郎　冬ちゃんは冬ちゃんて

冬子　本当恥ずかしいんだけど

秀一郎、冬子の後ろの壁にかかっている時計を見る

秀一郎　つかもうバイト行かなきゃ

冬子　えー待ってよ

秀一郎 無理無理。遅刻する
冬子 ちゃん付け嫌なんだけど

秀一郎、簡単に身支度する。
冬子、構わず暴力を振るう

・あづさ登場

とあるカフェ

冬子とあづさが紙のコップを持ち、取っついておいた席に座る

あづさ あたし、いまだにトールのこと認められないんだよね

冬子 何いきなり

あづさ だって「でよくない？ 何トールって？ 何語？

冬子 英語なんじゃないの？

あづさ の・M・「でよくない？ 何でオシャレぶってんの？

冬子 じゃあ「って言えばいいじゃん

あづさ それは負けてしょ

冬子 じゃあトールっていいなよ

あづさ それも負けてしょ

冬子 全然わかんないんだけど（笑）

あづさ 彼氏が浮気してるかもしれないんだよね

冬子 （笑）

あづさ 笑い事じゃなくて

冬子 トールの話どこいったの？

あづさ それはあれじゃん。話の導入として必要じゃん

冬子 何か関係あんの？

あづさ いや、関係ないけど

冬子 ないんだ（笑）

あづさ 絶対浮気してる。最近全然会ってくれなくて。もう付き合って長いから相手が

冬子 絶対浮気してる。最近全然会ってくれなくて。もう付き合って長いから相手が

あづさ うん。2年付き合えばわかるじゃん。2年くらい？

冬子 高校からだっけ？ 2年くらい？

あづさ うん。2年付き合えばわかるじゃん。大学違っても行動パターンとか。なのに

冬子 どう考えても休みの日に「会おう」っていてもなんか理由つけて会ってくれ

あづさ 怪しいね

冬子 怪しいね

あづさ でしょ？ で、この前久しぶりに家行ったら、なんかこれ見よがしに口紅置い

冬子 てあんの

あづさ 決まりじゃん

冬子 決まりじゃん

あづさ でしょ。どうしたらいいと思う？

冬子 浮気はだって、別れた方がいいでしょ

あづさ でも、別れるのも面倒じゃん。あたしは好きだし

冬子 えー。でも先見えなくない？

あづさ 見えない。真っ暗。

冬子 じゃあ別れようよ

あづさ でも、好きなんだもん

冬子 えー

あづさ 冬はどうなの？

冬子 あたし？ あたしは何もないよ

あづさ 何で隠すの？ 橋本さんとデート行っただけでしょ？

冬子 行っただけ

あづさ 楽しかった？

冬子 まあ、普通に

あづさ えーじゃあいいじゃん。付き合おうよ

冬子 早いでしょ（笑）

あづさ だって好きでしょ？

冬子 うーん、わかんない

あづさ でも、楽しかったんでしょ？

冬子 まあ、ね

あづさ 橋本さんと冬あつてると思うよ。二人でいるときなんかいい感じだもん

冬子 うーん

あづさ 悩むってことは無しじゃないってことでしょ。もうほんと好きだよ、それ

冬子 そうなのかなあ

あづさ 口紅置かれる女よりは幸せだと思う

冬子 だから別れようよ

あづさ でも、好き

呆れる冬子。コーヒーを一口飲む

・かに

海

秀一郎と田辺がカニを探している

岩場の隙間を身をかがめ必死に覗き込む二人

田辺 カニいた！ カニいた！

秀一郎 まじ！？

田辺 この奥！

・歯磨き

秀一郎の部屋の台所

日当たりが悪いのか薄暗い

コンロの横にある小さな窓から朝の日差しが入って来てそこだけ白く明るい
と、寝起きの冬子が来て、歯を磨きはじめる

と、秀一郎もくる

冬子 おはよ

秀一郎 いはよ

冬子 いはよって何？

秀一郎、無視して歯を磨きはじめる

冬子 あ！

秀一郎 なに！？

冬子 歯磨き粉！

秀一郎 歯磨き粉が何？
冬子 出しすぎでしょ
秀一郎 そう？
冬子 最近歯磨き粉の減りが早いと思ったら、お前か！
秀一郎 そんなに多い？
冬子 多いよ！ そんなにつけたら落ちるもんも落ちないよ
秀一郎 落ちるでしょ
冬子 いや、別にいんだけど。もったいないじゃん？
秀一郎 えーごめん。じゃあ今度から持ってくるよ
冬子 いいよ。でも、買って来て
秀一郎 うん

二人、並んで歯を磨く

・もう一度動物園へ

二人の部屋

秀一郎が黙ってゲームをしている
静かな部屋。機械的な電子音だけが響いている
と、冬子がスーパールの袋を手に仕事から帰ってくる

冬子 ただいまー
秀一郎 おかえりー
冬子 今日早くない？
秀一郎 俺だって早く帰ることくらいあるよ
冬子 いや、最近忙しそうだったから
秀一郎 めっちゃ忙しい。新しい企画任されちゃったし
冬子 そうなんだ。すごいじゃん。ゲームなんかしてていいの？
秀一郎 早く帰れた日くらいゲームさせてよ
冬子 そうだね。言ってくればあたしも早く帰って来たのに
秀一郎 無理しなくていいよ
冬子 無理してないよ。でもさあ
秀一郎 なんかあるの？
冬子 別に何かあるわけじゃないけど
秀一郎 そっか

冬子、台所へ行く
冬子を買って来たものを冷蔵庫に入れたりするのが物音からわかる
しばらくして冬子、戻ってくる

冬子 秀ちゃん連休とかないの？
秀一郎 うーんどうだろう。仕事の進み具合によるかな。なんで？
冬子 なんてってわけじゃないけど。最近二人でどっか行くとかしてないなあと思っ
て
秀一郎 まあ、そんなもんなんじゃないの。社会人って。遊んでばっかいられないでし
よ
冬子 そうだけど。たまにはどっか行ったりしたくない？ ゴールデンウィークも家
でダラダラしちゃったし

秀一郎 例えば？

冬子 温泉とか？

秀一郎 遠くない？

冬子 熱海とか近いじゃん

秀一郎 温泉は冬の方がよくない？

冬子 別に近場でもいいから。あ、動物園行こうよ

秀一郎 動物園？ そんな歳？

冬子 歳関係なくない？ 一回行ったけど喧嘩しちゃってちゃんと見れなかったじゃん

秀一郎 そうだっけ？

冬子 そうだよー、あたしすごい怒ったじゃん

秀一郎 そうだっけ？ それって水族館の時じゃない？

冬子 動物園だよ。秀ちゃんがなんかパレード見に行っちゃって、あたし置き去りにしちゃってさ

秀一郎 そうだっけ？ うわー死んだ

秀一郎、コントローラーを放り投げる

冬子 行かない？

秀一郎 そんな暇あるかなー

冬子 休み合わせるからさ

秀一郎 考えてみるわ

冬子 ちゃんと考えてよ？

秀一郎 わかってるよ。でも、今の企画終わるまで無理かも

冬子 そんな忙しいの？

秀一郎 色々ね

秀一郎、またゲームを始める

冬子、少し寂しそうにまた台所へ行く

・生配信

あづさの部屋

あづさが一人でいる

椅子に座り、パソコンのモニターに向かって楽しそうに話している

あづさ かまぼこ、きりたんぽ、なると……あと何？

コメント さつま揚げ

あづさ ああ、さつま揚げね。え、さつま揚げって何？

コメ きりたんぽは違うだろミ

コメ もっかいきりたんぽって言って

あづさ え、きりたんぽって何？ 練り物じゃないの？ てか、さつま揚げって何？

さんま？

コメ さんまミ

コメ 知らないの？

あづさ 全然知らない。なにさつま揚げって

コメ きりたんぽは練ってるけど魚じゃない

あづさ え、そうなの！？ じゃあ何練ってるの？

コメ さつま揚げ知らないとか鹿児島に喧嘩売ってる
 あづさ 鹿児島？ 鹿児島にあるのさつま揚げ
 コメ あづにゃん今日もかわいい
 あづさ ー22番さんありがと！
 コメ ちゃんと日本史勉強したか？
 コメ きりたんぽはコメ
 あづさ コメって何？ コメント？
 コメ コメント？
 コメ 現代っ子恐ろしい
 コメ お米
 あづさ あ、米ってそっちね（笑）ご飯って言ってよ
 コメ 西郷でござす
 あづさ 西郷って？ 西郷隆盛？
 コメ あづにゃん細すぎゑもっとコメ食え
 あづさ きりたんぽ食べるわ
 コメ 今北。きりたんぽ？
 あづさ ー26番さんありがとー。いや、おでんの具何が好きって話になって、それで
 あたしがちくわが好きなんだよねって言ったら練り物界でちくわは何位かみ
 たいな話になって、練り物って他に何あるのみたいな話になったの
 コメ 今仕事おわたー放送間に合ってうれしい
 あづさ ー30番さんお疲れー。この時間まで仕事とかブラックだね
 コメ 西郷隆盛のいたのが薩摩藩。現在の鹿児島
 あづさ へーそうなんだ。鹿児島の名物なの？
 コメ 中学生レベル
 コメ ※彼女は女子大生です
 あづさ いや知らないでしょ。難しすぎる
 コメ 今日誕生日の俺に何か一言
 あづさ まじか！ 56番さんおめでとー！ はいーみんなーハッピーバースデートウ
 ーユー
 コメ ハッピーバースデートウーユー
 あづさ ハッピーバースデーディア56番さん
 みんな ハッピーバースデートウーユー
 あづさ パチパチパチパチ
 コメ 8888888888888888
 あづさ おめでとー
 コメ おめでとー
 コメ おめでとー
 コメ 56番さんにはきりたんぽあげます。あづにゃんが
 あづさ あげないわ（笑）

楽しそうにモニターに話し続けるあづさ

・温泉卓球

温泉旅館の一角
 浴衣で激しく卓球をする冬子と秀一郎
 秀一郎 めっちゃ汗かいた
 冬子 せっかく温泉入ったのにね

二人、また温泉に入りに行く

・コンビニ帰り道

暑い

蝉の鳴く声が聞こえる
吹く風は涼しいが、日中の日差しがアスファルトに残っていて、まだ少し蒸し
街灯の薄暗い明かりに照らされながら歩く冬子と秀一郎
秀一郎の手には白いビニール袋がぶら下がっている
二人の間には少し酔った時のような気だるく、かすかに甘い空気が流れている

冬子 秀ちゃん、ババ抜き弱すぎない？
秀一郎 弱いとかないでしょ。運じゃんあんなの
冬子 いや、弱いでしょ。どっちがババかすぐわかるもん
秀一郎 ホントに？
冬子 ババ持つてる方見つめ続けるから
秀一郎 マジで？
冬子 マジで
秀一郎 言ってよ
冬子 言わないよ
秀一郎 そんなに見てる？
冬子 見てる見てる
秀一郎 マジかー。全く気づいてない
冬子 今まで言われたことなかったの？
秀一郎 ないよ。弱いと思ったことすらなかったもん
冬子 まあ嘘だけど
秀一郎 嘘かよ
冬子 あ、流れ星
秀一郎 どこ？
冬子 嘘
秀一郎 嘘かよ
冬子 騙されやすすぎだよ、秀ちゃん
秀一郎 結構疑り深い方だと思ってたんだけど
冬子 あ、パー子
秀一郎 もう騙されないから
冬子 いや、本当に！パー子！ほら！
秀一郎 あ！本当だ！
冬子 普通に歩いてるんだね
秀一郎 芸能人とか初めて見たかも
冬子 本当に？
秀一郎 そんなに見ることなくない？
冬子 高円寺とかよく歩いてるよ
秀一郎 マジで。知らなかった。みんな車移動じゃないの？
冬子 そんなわけないでしょ。人間なんだし。普通に歩くこともあるでしょ
秀一郎 そっかー。じゃあ石原さとみとかも歩いてんのかな
冬子 あれは人間じゃないし
秀一郎 人間じゃないの？
冬子 CGだよ。あれは

秀一郎 マジかー知らなかったわ
冬子 嘘だよ
秀一郎 知ってるよ

間

冬子 夏終わっちゃうね
秀一郎 今年はどこも行かなかったな
冬子 休み合わないもんね
秀一郎 冬ちゃん超忙しいし
冬子 ごめんって。でも、秀ちゃんだって忙しいじゃん
秀一郎 お互い様かあ
冬子 田辺くんたちと海行ったの覚えてる？
秀一郎 ああ。行ったね
冬子 秀ちゃんたち力ニ取りまくってたよね
秀一郎 全部エビだったけどね
冬子 あれもう2年も前なのかー
秀一郎 早いなー。田辺とか何してんのかな？
冬子 連絡取ってないの？
秀一郎 向こうも忙しそうだし
冬子 会社、大阪だっけ？
秀一郎 うん
冬子 大学の時はずっと一緒だったのにね
秀一郎 なんかもうちよつと懐かしいわ
冬子 まだ3ヶ月ちよつとしか経ってないよ
秀一郎 すごい昔に感じる
冬子 なんからおっさんみたい
秀一郎 マジかよーまだ23だよ
冬子 とか言ってたらいつのまにか30になって、そのまま40になって、そのまま死んじゃうよ
秀一郎 時の流れ怖！
冬子 みんな結婚とかするのかなあ
秀一郎 そういう話？
冬子 そういうわけじゃないけど
秀一郎 結婚かあ。する？
冬子 何？ プロポーズ？
秀一郎 違うけど
冬子 違うんだ
秀一郎 どう思ってたんだろうと思って
冬子 あたしも秀ちゃんも仕事着いたばかりでまだ落ち着いてないし。そういうの落ち着いてからでもいいんじゃない？
秀一郎 ……
冬子 何？
秀一郎 いや、意外と真面目に考えてるんだなと思って
冬子 秀ちゃんも真面目に考えてよ
秀一郎 うん
冬子 何で暗くなんの？

・田辺とゲーム

田辺の部屋

洗濯物や飲みかけのペットボトルが少し散らかっている
秀一郎がベッドを背もたれにしてゲームをしている

ベッドに横になってそれを見ている田辺

田辺　なあ、橋本

秀一郎　なに？

田辺　俺って頭おかしいかな？

秀一郎　どうだろう？　普通じゃない？

田辺　そっかー。じゃあやっぱり緊張してたんだなあ

秀一郎　なに？

田辺　いやこの前あづさちゃんと初デートに行ったの

秀一郎　あづさちゃんとか？　え、お前ら付き合ってたの？

田辺　うん。でも、振られた

秀一郎　展開早くない？

田辺　友達としては良かったけど、付き合ったらなんか違うって

秀一郎　いい友達ってこと？

田辺　かもしれない

秀一郎　友達に戻ったの？

田辺　戻った

秀一郎　気まずくないの？

田辺　全然ないね。むしろありがたい

秀一郎　そうなの？

田辺　いやなんか初デートの記憶ないんだよね。めっちゃ緊張しちゃってなに喋った

かほば覚えてないの。いけすに入った錦鯉を見に行ったところまでは覚えてる

秀一郎　んだけど。そこから先の記憶がないんだよね

田辺　なんで鯉なんて見たの？　好きなの？

秀一郎　好きじゃないよ

田辺　じゃあなんで？

秀一郎　ブルータスで特集してたからだよ

田辺　ブルータスかー

秀一郎　ブルータスだよー

田辺　ダメだったの？

秀一郎　裏の裏の裏だった

田辺　裏じゃん

秀一郎　そうだよー裏だったんだよー

田辺　初デートで錦鯉はきついでしょ

秀一郎　ブルータスまじで許さない。もう金輪際買わない！

田辺　ブルータス悪くいうなよ

秀一郎　でも友達の方がいいわ。緊張しなくて済むし

田辺　そんなに緊張する？

秀一郎　するする。しない？

田辺　まあ最初はするけど

秀一郎　橋本はどうなの？

田辺　絶対好調

秀一郎　マジかあ。いいなあー。俺も彼女ほしい

田辺　ヨリ戻せば？

田辺 無理無理。あ、そこアイテムあるよ
 秀一郎 (振り向いて) どこ？
 田辺 (画面を指差して) 右の棚の中
 秀一郎 本だ。サンキュー
 田辺 初デートとかどこ行っただの？
 秀一郎 ん？ 冬ちゃんとか？ 映画
 田辺 映画かー映画だよなあ、やっぱり。無難なところ攻めた方がいいよなあ
 秀一郎 喋んなくていいしね
 田辺 錦鯉も喋んなくて良かったよ？
 秀一郎 魚見ても喋ることないでしょ
 田辺 確かに盛り上がりなかった
 秀一郎 やっぱ映画だよ。映画
 田辺 じゃあ次彼女できたら映画行く
 秀一郎 そうしな
 田辺 あ、そこアイテムあるよ
 秀一郎 どこ？
 田辺 右の棚
 秀一郎 本だ。サンキュー
 田辺 どんな子がいいかな？
 秀一郎 え？
 田辺 俺にはどんな子があつてと思う？
 秀一郎 えーとりあえず緊張しない子じゃない？
 田辺 だいたい緊張しないよ
 秀一郎 してるじゃん
 田辺 それはあづさちゃんだったからだよ
 秀一郎 本当に？ 田辺、女子と話す時、ちょっとおかしいことあるよ？
 田辺 え、まじ？ どんとき？
 秀一郎 うーん具体的には出てこないけど
 田辺 やっぱ男子校出身だからかな。あ、そこアイテムあるよ
 秀一郎 どこ？
 田辺 右の棚
 秀一郎 あ、本だ。サンキュー
 田辺 つか、冬ちゃんって呼んでるんだ
 秀一郎 うるせえよ。
 田辺 あ、そこアイテムあるよ
 秀一郎 どこ？
 田辺 右の棚
 秀一郎 あ、本だ。サンキュー
 田辺 うわー恋愛って難しい
 秀一郎 本当になあ
 田辺 彼女いる奴が言ってるじゃねえよ
 秀一郎 (笑)
 田辺 あ、そこアイテムあるよ
 秀一郎 どこ？
 田辺 右の棚
 秀一郎 あ、本だ。サンキュー

田辺、恋愛について悩む。秀一郎ゲームを続ける

・かに

海

秀一郎と田辺がカニを探している
岩場の隙間を身をかがめ必死に覗き込む二人

田辺 カニいた！ カニいた！

秀一郎 まじ！？

田辺 この奥！

・卒業旅行

夜中の街

雑居ビルのネオンや車のライトが辺りを照らし、走り去るトラックや街に行く
人の喧騒が慌ただしく行き来している
冬子とあづさと田辺が、携帯をいじったり、歩道の手すりに座ったりもたれた
りしながら、秀一郎を待っている
近くには田辺の借りたレンタカーが止まっている

田辺 橋本遅くない？

冬子 バイト終わったらすぐ来るって言ってたんだけどね。ながびいてるのかな？

あづさ ブラックバイトだ

冬子 どこもそんなもんでしょ

あづさ 寒いよー

田辺 これはジューズおごりだな

あづさ いいね

田辺 場所わかってんだよね？

冬子 多分

冬子 あ、ラインきた。『どこ？』だって？

田辺 わかってないじゃん

あづさ 早くー

冬子 じゃあちよつと迎え行ってくる

あづさ はーい

冬子、携帯を見ながら去る

田辺 なんかめんどくさくなってきた

あづさ ちよつとわかる

田辺 運転めんどくせー

あづさ 京都まで何時間くらいかかるかな？

田辺 まあ、高速使って7、8時間じゃない？

あづさ 遠いなあー

田辺 あづさちゃんが卒業旅行京都がいって言ったんじゃん

あづさ だっておしゃれじゃん、京都

田辺 そういうの興味あんの？

あづさ 御朱印帳とか持ってるもん

田辺 へー俺も買おうかな

あづさ いいじゃん。和風なの好きじゃん。錦鯉とか

田辺 好きじゃないよ(笑)
あづさ だって初デートで錦鯉は信じられないよ
田辺 もう忘れてよ
あづさ 忘れられないでしょ。ネタ的に
田辺 ネタかよ(笑)
あづさ もう2年も経つんだね
田辺 マジで
あづさ そりゃ、我々も社会人になるわけですからわ
田辺 だね、はあ、引越しの準備しなきゃ、思い出しちゃったじゃん
あづさ 大阪行くんだっけ？
田辺 うん。東京にも部署あるらしいけど、まずは本社で働くらしい
あづさ そうなんだ
田辺 大阪ってなにがあるんだろ？
あづさ お好み焼きとかたこ焼きとか？
田辺 東京にもあるじゃん
あづさ 通天閣とか？
田辺 スカイツリーでいいし
あづさ 大阪、ほとんど東京じゃん
田辺 あづさちゃん、地元だっけ？
あづさ そうそう。地方公務員だよ
田辺 地元なにがあるの？
あづさ 五平餅？
田辺 なにそれ
あづさ なんかみたらし団子の強化版みたいなやつ
田辺 えー知らない
あづさ マイナーだから
田辺 東京にはないよ
あづさ 五平餅いらないし。ツタヤとかが欲しい
田辺 ツタヤくらいあるでしょ
あづさ 田舎なめないでよ
田辺 そんなに？
あづさ そんなに
田辺 それはきついなあ
あづさ 東京いたいなあ
田辺 東京いたらまたこうやって夜中に車走らせて旅行行こうとかなるのかな？
あづさ 難しいんじゃない。仕事あるし。休みとか合わせるのキツそう。冬子休み不定期っぽいし
田辺 そっかー。じゃあこれが最後になるのかな？
あづさ かもね
田辺 それはちよつと寂しいかも
あづさ うん
田辺 まあ、また集まって飲むくらいはできるか
あづさ そうだね。お盆休みとかあるしね
田辺 そうそう

と、冬子が秀一郎を連れてやって来る

あづさ あ、きた

田辺 おせーよ
秀一郎 ごめん、道迷った
あづさ 橋本くんジュースおごりね
秀一郎 は？　なんで？
田辺 遅刻したからだよ
秀一郎 でも、5分くらいじゃん
田辺 遅刻は遅刻だよ
冬子 明日のお昼ご飯おごりでもいいよ
秀一郎 高くなってるじゃん
あづさ やったーおごりだー
冬子 なに食べよう？
秀一郎 いや、おごんないよ

と、話しながら止めていたレンタカーに乗り込む4人

田辺 じゃあ行きますかー。橋本、ちゃんとシートベルトとしてね
秀一郎 わかってるって

田辺、キーを回す

あづさ 夜中出発とか初めて
冬子 田辺くん事故じゃないでよ
田辺 大丈夫大丈夫
あづさ ちよっと怖い
田辺 なんて？
あづさ 下手そう
田辺 いや結構運転してるよ
冬子 本当に？
あづさ 橋本くんなんか音楽かけて
秀一郎 うん
冬子 秀ちゃん曲選び悪いよ？
秀一郎 悪くないよ

秀一郎、音楽をかける
走り出す車
夜のドライブ。だんだん音が上がってくる
音にかき消され何を話しているかはわからないが楽しそうな車内
車の窓からは建物や高速の冷たく人工的な光が明るすぎる星のように輝くのが見える
速度を上げて行く田辺。光が線になって流れて行く

・動物園

安っぽい白いプラスチックのテーブルや椅子が並んでいる
周りには食事を楽しむカップルや動物にはしゃぐ家族連れ
空は少し曇っている
テーブルを挟んで険悪な空気の冬子と秀一郎
秀一郎の手には動物園のパンフレットが握られている

冬子 ……

秀一郎 なに怒ってんの？

冬子 わかるでしょ

秀一郎 わかるけど。だからごめんって言ってるじゃん

冬子 ごめんじゃないでしょ。デートで彼女おいてどっかいく、普通？

秀一郎 しょうがないじゃん。ゴリラがパレードするっていつてたんだから

冬子 ゴリラと彼女だったらゴリラとるんだ

秀一郎 そうじゃないけどさあ

冬子 ってかなに？ ゴリラのパレードって？ そんなに見たい？

秀一郎 そりゃ見たいでしょ！ なかなかないよ？

冬子 なんてそっちが怒ってんの？

秀一郎 ごめん……

冬子 それで結局ゴリラのぬいぐるみが歩いてただけなんですよ？

秀一郎 それは『ゴリラのパレードが始まります♪』ってアナウンスで言うからさ。

冬子 思うじゃん、ゴリラ練り歩くんだって

秀一郎 思わないよ。なんのための檻なの、あれは？ 自ら檻の外に出してどうすんの

冬子 ……確かに 確かに

秀一郎 確かにじゃないでしょ！ 考えればわかるでしょ

冬子 ……

秀一郎 挙げ句の果てに迷子アナウンスって。すごい恥ずかしかったんだからね

冬子 それが一番早いと思って

秀一郎 係りの人にめっちゃ変な目で見られたんだよ。わかる？

冬子 それは考えすぎじゃない？

冬子 そんなことないから！ 絶対バカにされてたから！ ってか、なんであたしが

迷子なわけ？ 完璧そっちでしょ？

秀一郎 ……はい

冬子 はあ……もういい帰る

冬子、立ち上がっていこうとする

秀一郎 なんて楽しみにしてたじゃん

冬子 楽しみにしてたのにぶち壊されたんですけど

秀一郎 だからごめんって！

冬子、去る

秀一郎 ちよつと冬ちゃん

秀一郎、立ち上がり冬子を追う

・相合傘

冬の海。砂浜に穏やかな波が寄せては返している

雲はなく青空が広がり、陽の光が海に反射して少しだけ眩しい

冬子 うわー

秀一郎 気をつけて

冬子、波のつくギリギリに立ってはしゃいでいる
少し離れたところからそれを嬉しそうに見る秀一郎

冬子　ねえー
秀一郎　？

冬子、秀一郎にカメラを向ける

秀一郎　えーかつこよく撮ってよー
冬子　あたしの腕なめんなよ

冬子、秀一郎を撮ろうとする。と、波が来る

冬子　うわー

秀一郎　（笑）

冬子　笑ってんなよ（笑）

秀一郎　ごめんごめん

冬子、木の棒を見つけ、それを秀一郎に渡す

冬子　ねえ、これで相合傘かい

秀一郎　俺が？　普通そういうのって冬ちゃんが描くんじゃないの？
冬子　だってあたし撮らなきゃだし。ほら、いいから書いて

秀一郎、渋々砂浜に相合傘をかく

秀一郎　一筆じゃないといけないんだっけ？

冬子　知らない。相合傘ってルールあるの？

秀一郎　なんか真ん中貫いちゃいけないんだよ

冬子　そうなんだ

秀一郎　俺の名前は冬ちゃん書いて

冬子　なんで？

・一人のジェンガ

二人の部屋

冬子が座っている

冬子の前にはジェンガが積まれている

冬子、静かに一本ジェンガを抜いて上にのせる

積んだジェンガを見つめる冬子

長く静かな間

・ハッピーハロウィン

冬子の部屋

冬子が床に座って一人で本を読んでいる
と、狼の仮装をしたあづさがやってくる

あづさ　ハッピーハロウィン！

冬子、あづさに目をやるが無言

あづさ トリックオアトリート！

冬子、読書に戻る

あづさ ちよっとちよっと

冬子 何？

あづさ ハロウィンしない？

冬子 しないよ

あづさ なんて？ せっかく家まで来たのに？

冬子 ドン引きだよ

あづさ なんて！？

冬子 何それ？

あづさ ？ ああ、狼女！ クオリティ高くない？

冬子 ゾンビメイクとかじゃないの？

あづさ あたしぶっきっちよだからさ

冬子 ふーん

あづさ でも、まじ狼じゃない？ わおーん

冬子 全然狼じゃない

あづさ はあ？ どこが？

冬子 心

あづさ 心？

冬子 もっと狼の気持ちにならないと。見た目だけ狼になってもしょうがないでしょ。狼の気持ちになったことある？

あづさ ないけど、

冬子 じゃあちよっとなってみて

あづさ はあ？

冬子 ほらイメージして

あづさ、狼をイメージする

あづさ わおーん

冬子 うーん、まだ足りない

あづさ わおーん

冬子 おしい

あづさ ワオーン！

冬子 あ、いいじゃん

あづさ そう？

冬子 うん、よかったよかった

あづさ まじか。わおーん

冬子 あー下がった

あづさ ワオーン

冬子 それそれ

あづさ ワオーン

冬子 いい感じいい感じ

さらに狼をイメージして四つん這いになるあづさ

あづさ ワウ
冬子 ここはチベットだよ
あづさ ウー
冬子 寒いのか？
あづさ ワウ
冬子 寒いかー寒いよねー
あづさ ワウワウワウ
冬子 川？ 川なの？
あづさ ワウー
冬子 あ、違う？
あづさ ワウワウワウ
冬子 あ、ダメだ。全然わかんない
あづさ ワウー
冬子 ごめんごめん
あづさ ワウーワウーワウー
冬子 え？ 何？
あづさ ワウミッド、ワウミッド
冬子 ピラミッド？
あづさ ワウワウワウワウ
冬子 あってるんだ。でも、チベットピラミッドないよ
あづさ ワウー
冬子 落ち込まないでー

二人、さらに続ける
あづさ、どんどん犬みたいになっていく
盛り上がりすぎていく二人

あづさ 狼なれたかな？
冬子 なれたよ。なれたっていうかいた。狼いた
あづさ 狼いた？
冬子 いた
あづさ コスプレなめてた
冬子 もう立派な狼女だね
あづさ ありがとー冬のおかげ
冬子 写真撮ってあげる
あづさ まじ！

冬子、カメラを手にとる

冬子 いくよーはい、チーズ
あづさ ワォーン！

あづさ、今日一番の遠吠え。冬子、シャッターを切る

・ピラミッド

ベッドの上。冬子と秀一郎が寝ている。冬子は本当に寝ているが秀一郎は起きている。と、冬子が目を覚ます

冬子 ……今何時？
秀一郎 5時くらい
冬子 ずっと起きてたの？
秀一郎 いや、なんか起きちゃった
冬子 そっか。何見てんの？
秀一郎 ツイッター
冬子 なんか面白いのある？
秀一郎 何だろう？ みんな寝てる
冬子 そっか

二人、また寝始める

冬子 ねえ
秀一郎 何？
冬子 私のこと好き？

・出会い

とある河川敷
地べたに膝を立て座り、川を見ながら一人ビールを飲む秀一郎
少し離れたところではバーベキューが行われ、わいわいと騒がしくしている
と、後ろから冬子がやってくる

冬子 橋本くん？ だっけ？
秀一郎 え？ はい
冬子 文学部2年の水上冬子です
秀一郎 あ、初めまして
冬子 隣いいですか？
秀一郎 え？ ああ。どうぞ

冬子、秀一郎の隣に一人分空けて体育座りで座る
川を見る二人

秀一郎 みんなと飲まないんですか？
冬子 ちょっと疲れちゃって
秀一郎 すげー騒いでますもんね
冬子 ね

続かない会話。秀一郎、一口ビールを飲む。と、冬子の首に下がったカメラに
気づく

秀一郎 それ
冬子 ？
秀一郎 写真撮るんですか？
冬子 え？ ああ。はい。趣味ですけど
秀一郎 へー。いいっすね
冬子 そうですかね？
秀一郎 いや、わかんないですけど（苦笑）

冬子 はい（苦笑）

秀一郎、一口ビールを飲む

冬子も横に置いていた缶チューハイを一口飲み、また置く

秀一郎 何撮るんですか？

冬子 あー、まあ色々？

秀一郎 そっか

秀一郎、また一口ビールを飲む。短い間

冬子 （カメラを持って）一枚撮りましょうか？

秀一郎 え？

冬子 一枚

秀一郎 なんで？（苦笑）

冬子 なんか写真興味あるのかなと思って

秀一郎 いや（苦笑）

冬子 あ、すみません

秀一郎 いや、そういう意味じゃなくて

冬子 ？

秀一郎 いや、なんもないんですけど（苦笑）

秀一郎、顔を背け、ビールを一口含む

冬子、手に持ったカメラを川の方に向け何枚か写真を撮る
カシャ、カシャッとシャッター音が鳴る

・ベッド

冬子 ねえ

秀一郎 何？

冬子 私のこと好き？

秀一郎 好きだよ？

冬子 そっか

秀一郎 珍しいね。冬ちゃんが言うことというの

冬子 だめ？

秀一郎 だめじゃないけど。嬉しい

冬子 うん

秀一郎 ありがと

冬子 うん

・出会い

秀一郎 なんかいいですね

冬子 え？

秀一郎 その音。カシャカシャいうの

冬子 ああ

秀一郎 なんかよかったです。よくわかんないけど

冬子 うん

秀一郎、また顔を背け、ビールを飲む
冬子もまた写真を撮り始める。どことなくさつきより嬉しそうに見える

・ベッド

秀一郎 おやすみ
冬子 おやすみ

二人とも眠る

・ジエンガ崩壊

二人の部屋

冬子、静かに一本ジエンガを抜いて上にのせ、しばらく見つめる
そしてもう一本抜いてのせる

もう一本。もう一本
と、ジエンガが崩れる

冬子、崩れたジエンガを少しだけ見つめて、何も言わずに眠る

・本音

とある居酒屋

秀一郎と永野がテーブルを挟んで座っている
週末のせいか店内は賑わっていて少しうるさい

流行りのＣポップが喧騒とともに聞こえる

永野、乱暴に自分のグラスに注がれた芋焼酎を飲む
それを少し面倒そうに見る秀一郎

永野 なんなの本当。意味わかんないんだけど。意味わかんなくない？

秀一郎 わかんないっすね

永野 私が振るならわかるよ。だって、向こうが浮気してんだからさ。なのに、なんで？　なんで、私が振られてるの？　意味わかんないよ？　さらに傷つけてくるって何？

秀一郎 いや、わかんないですけど、彼氏さんなのけじめみたいなやつじゃないですか？

永野 けじめって何？　ただの自己満でしょ。俺はちゃんと別れましたよって宣言しただけでしょ？

秀一郎 いや、まあ、
永野 なんでもそんなことでこっちが傷つけられなきゃいけないの？　暴力だよ、暴力。男って本当そう。すぐ暴力。自分が気持ちよくなるために女殴る生き物なんだよ

秀一郎 いやいや

永野 いやいやって。橋本くんだってそういう男なんだよ

秀一郎 そんなことないですよ

永野 彼女さんだってそう思ってるよ

秀一郎 違いますよ

永野 本当に？

秀一郎 たぶん

永野 仲いいんだ

秀一郎 そんなこともないですけど

永野 不満とかないんでしょう？

秀一郎 いや、ちよつとはありますよ

永野 あるんだ

秀一郎 あいつ洗濯物の干し方とかめっちゃうるさいんですよ

永野 はあ？

秀一郎 なんかにパンパンって叩かないとすげー怒るんですよ。シワになるって言って

永野 何それ。お母さんみたい（笑）

秀一郎 本当に（笑）

永野 でも、ちゃんとパンパンってするんですよ？

秀一郎 まあ、しますけど。怒られるんで

永野 いいやつだなあ

秀一郎 そうですか？

永野 もっと亭主関白みたいになよ

秀一郎 無理ですよ。そんなキャラじゃないし

永野 そんなだからセックスレスなんだよ

秀一郎 はあ？

永野 だって彼女さん言ってたよ。最近してないんですーって

秀一郎 マジですか？ ってかやめてくださいよ（笑）

永野 いいじゃん、別に。セックスなんて付き合ってたらみんなするんだから

秀一郎 ちよつと（笑）

永野 でも、付き合っていく上でそういうことも大切ですよ。ってかそれが一番じゃない？

秀一郎 そうですか？

永野 そうだよ。じゃあこのまま一生できなくてもいいの？

秀一郎 それはアレですけど……

永野 やっぱ無理なんじゃん。ってかなんでしないの？

秀一郎 なんてって

永野 飽きちゃった？

秀一郎 飽きてないですよ（笑） いや、わかんないですけど、

永野 飽きてるんだ（笑）

秀一郎 いや、飽きたっていうか……なんていうんですかね

永野 彼女さんのこと好きじゃないの？

秀一郎 いや、好きですよ

永野 橋本くんデートとか最近した？

秀一郎 デート、してないですね

永野 ほらー

秀一郎 いや、違いますって（笑） ちよつと一緒にいすぎたっていうか……

永野 それを飽きたっていうんだよ

秀一郎 えー（笑）

永野、グラスの水を指で回す

永野 でも、ちゃんとしないと私みたいになっちゃうよ

秀一郎 そうなんですかねえ？

永野 どうなんだろうね

秀一郎 飽きちゃってんのかなー

永野 でも、好きなんですよ？

秀一郎 そう……ですネ

永野 じゃあ大丈夫でしょ

秀一郎 でも、飽きちゃってるからなー（笑）

永野 浮気とかしてみたら？

秀一郎 しちゃいます？（笑）

永野 最低（笑）

秀一郎 しないですよ（笑）

・観覧車

遊園地。観覧車の中

並んで座るの冬子と秀一郎。二人の手は繋がれている
冬子、外を見る

冬子 どうしたの？

秀一郎 なんか緊張してる

冬子 なんで（笑）

秀一郎 バカみたいじゃないかな？

冬子 わかんない。バカかも

秀一郎 そっか……

冬子 いや、でもクリスマスだし

秀一郎、黙ってしまふ

冬子 ……やめる？

秀一郎 それはない

冬子 （笑）

秀一郎 冬ちゃんは嫌？

冬子 うーん、わかんない

秀一郎 え、

冬子 うそうそ。嫌じゃない（笑）

秀一郎 うん

冬子 （外を見て）そろそろてっぺんだよ

秀一郎 ……

冬子 大丈夫？

秀一郎 緊張する

冬子 そんなに？

秀一郎 緊張しない？

冬子 してる（笑）

秀一郎 でしょ。緊張するよね

・本音

秀一郎 でも、飽きちゃってるからなー（笑）

永野 浮気とかしてみたら？

秀一郎 しちゃいます？（笑）

永野 最低（笑）

・観覧車

冬子 大丈夫？
秀一郎 緊張する
冬子 そんなに？
秀一郎 緊張しない？
冬子 してる（笑）
秀一郎 でしょ
冬子 （外を見て）着いたよ
秀一郎 （外を見て）ホントだ。めっちゃ高いね
冬子 うん。（指差して）あ、船
秀一郎 ホントだ
冬子 すごいキレイ。なめてたわ、
秀一郎 本当に初めて？
冬子 本当。本当。

・温泉卓球

温泉旅館の一角
浴衣で激しく卓球をする冬子と秀一郎

・言い訳

とあるラブホテル
ベッドで永野が眠っている。その向こうには秀一郎が背を向けてベッドの端に座っている
ベッドに備え付けられた照明が薄ぼんやりとした橙色で部屋を照らしている
秀一郎、電話をかける。「コール目で冬子が電話に出る

秀一郎 もしもし？
冬子 （もしもし。どうしたの？）
秀一郎 メール見た？
冬子 （ごめん、ちょっと忙しくて見れてない）
秀一郎 そっか
冬子 （電話とか珍しいね）
秀一郎 今日泊まりになりそうだからメールしといた
冬子 （それだけ？）
秀一郎 うん
冬子 （そっか。あたしも今日は帰れそうにないから。気にしないで）
秀一郎 仕事忙しそうだね
冬子 （納期が重なっちゃって死にそう）
秀一郎 そうなんだ。無理しないでね。冬ちゃんががんばりすぎるとこあるから
冬子 （なんか今日優しいね）
秀一郎 そういう日だってあるよ
冬子 （そっか。嬉しい。秀ちゃんも気をつけてね）
秀一郎 うん。ありがと。じゃあそろそろ仕事戻らなきゃだから
冬子 （うん。こっちもそろそろ切らなきゃ）
秀一郎 うん。じゃあね

冬子 (ねえ、秀ちゃん、)

秀一郎 なに？

冬子 (……うん。なんでもない)

秀一郎 そっか

冬子 (うん)

秀一郎 じゃあね

冬子 (うん)

秀一郎 冬ちゃん、

もう電話は切れている

秀一郎 ……

秀一郎、静かに携帯を下ろす

・三年目の浮気

とあるラブホテル

秀一郎と永野がすぐ激しくセックス(温泉卓球)している

・汚い海

冬子 海って、もっと綺麗だと思ってたんだよね

秀一郎 そう？

冬子 地元に海なかったから、子供の頃とか海見たことなくて。なんか綺麗なイメージだったんだよね、海って。でも、実際はほとんど灰色とか変な緑色してて、生き物みたいな匂いして気持ち悪いし。なんかベタベタするしさ。あんまりいいことないよね

・観覧車

秀一郎 ホントだ

冬子 すごいキレイ。なめてたわ、観覧車

秀一郎 本当に初めて？

冬子 本当本当。遊園地自体初めてだから。あんまり出かける家族じゃなかったし。なんか来たことなかった

秀一郎 そっか。楽しい？

冬子 うん。秀ちゃんと来れてよかった

秀一郎、照れる

冬子 何？

秀一郎 いや、なんか可愛いなあ、と思って

冬子 何それ(笑)やめてよ

秀一郎 ごめん(笑)

冬子 秀ちゃん

秀一郎 ？

冬子 てっぺん終わっちゃうよ

・汚い海

秀一郎 悪いとは思ってるよ
冬子 何を？

秀一郎 いや、最近仕事とか忙しくてあんまり喋れてないなあって
冬子 別にいいよ

・観覧車

秀一郎 ごめん
冬子 秀ちゃん

秀一郎 ？
冬子 てっぺん終わっちゃうよ

・冬の洗濯

冬子の家のベランダ
朝の澄んだ空気の中、熱のない白いだけの太陽の光が差している
冬子、洗濯物を干している。秀一郎、それを手伝っている

秀一郎 寒いよー

冬子 それちゃんとパンパンしてよ

秀一郎 冷たすぎるよー

冬子 シワになっちゃうでしょ

秀一郎 冬ちゃん寒くないの？

冬子 寒いよ。早く終わらせたい。だから早く手うごかして

秀一郎 俺、冬ちゃんの洗濯物干すの手伝ってるんだけど

冬子 文句言わない

秀一郎 ういー

黙々と手を動かす冬子。秀一郎、気だるそうに手伝う

秀一郎 冬ちゃんって冬生まれだから冬子なの？
冬子 そうだよ

秀一郎 へー

冬子 安直だよ。冬に生まれたから冬子って。そのままだし

秀一郎 でもなんか似合ってるよ。冬ちゃん冬っぽいし

冬子 冬っぽいってなに？

秀一郎 冷たいところとか？

冬子 デイスじゃん

秀一郎 でも似合ってるよ

冬子 秀ちゃんは？

秀一郎 名前？

冬子 うん

秀一郎 長男だから

冬子 安直だね

秀一郎 だね

冬子 でも似合ってるよ

秀一郎 俺のまね？

冬子 そう

秀一郎 全然似てないから

冬子 うそー結構似てない？

秀一郎 似てない

冬子 ちょっと秀ちゃんやってみてよ

秀一郎 でも似合ってるよ

冬子 似てるー（笑）

秀一郎 本人だから

冬子 喋ってないで手うごかして

秀一郎 冷たいなあ。マジ冬子

冬子 ギャルみたいに言わないで。あとパンツ勝手に干さないで

秀一郎 ういー

・観覧車

冬子 てっぺん終わっちゃうよ

秀一郎 ああ、うん

秀一郎、姿勢を正す

秀一郎 じゃああの失礼します

冬子 （笑）

秀一郎 笑わないでよ！

冬子 だって（笑）

秀一郎 いい？

冬子 うん

二人、キスする

秀一郎 ……

冬子 ……

秀一郎 やっぱバカかも（笑）

冬子 うん（笑）

二人、照れるような嬉しいような甘い間

冬子、何気なく外を見る

綺麗な夜景が見える

冬子 （外を見ながら）でも、本当に秀ちゃんと来れて嬉しいよ

秀一郎 俺も

冬子 もう付き合って一年経つんだね

秀一郎 早いなあー

冬子、ほんの少し考えて

冬子 来年も再来年も、ずっとこうやっていれるかな

秀一郎 いれるよ

冬子 うん

秀一郎 約束ね（小指を出す）

冬子 恥ずかしい（笑）

秀一郎 今さら？

指切りする二人。また照れる。我慢できず吹き出す二人

秀一郎 ご飯何食べよっか？

冬子 あー何だろ

秀一郎 やっぱリケンタツキー？

冬子 いいね。クリスマスっぽい

秀一郎 ケーキも買わなきゃ

冬子 うん

秀一郎 あー

冬子 何？

秀一郎 幸せかも

冬子 （笑）

・最後の電話

二人の部屋

ベッドを背もたれにして冬子が座っている

ひとりぼっちの部屋。何も音はない。蛍光灯の明かり

冬子、しばらくして携帯を手に取り、電話をかける。

あづさが電話に出る

冬子 もしもし、あづさ

あづさ もしもし、いきなりどうした？

冬子 いや、何かあるとかじゃないんだけど

あづさ つか冬の声聞くの久々

冬子 ラインしかしてないもんね、最近

あづさ どうなの？ 元氣してる？

冬子 うん、元氣だよ。あづさは？

あづさ 元氣元氣。仕事は辞めたいけど

冬子 でも、公務員でしょ。定時上がりじゃん

あづさ そんなこともないよ。上司が飲みたがりだからすぐ連れて行かれるし。地方だ

冬子 から同い年の子とか全然いないし

あづさ えーじゃあ東京遊び来なよ。土日休みでしょ？ あたしも来週休みだから

冬子 行きたいよー。いや、マジで行こっかな？

あづさ 泊まっていーからさ

冬子 マジで？ え、でも橋本くんいるでしょ？

あづさ いいよ。一晩くらい。満喫とか泊まってもらおう

冬子 いいの？ じゃあ行こっかな

あづさ うん

冬子 あ、だめだ。来週結婚式だ

あづさ え？ あづさ結婚するの？

冬子 違うよ。高校の同級生。あたしの結婚式だったら冬も呼ぶに決まってるでしょ

あづさ だよ。そっかー

あづさ 再来週は？ そこだったら空いてる

冬子 再来週はあたしが空いてないや

あづさ そっかー。じゃあまた今度かな

冬子 そうだね

あづさ 冬も結婚するときはちゃんと呼んでね。めっちゃ祝いに行くから

冬子 うん。ありがと

あづさ じゃあ久しぶりの東京はその時かなあ。早く結婚してよー

冬子 わかった。相談しておく

あづさ っつか結婚の報告だと思ったのに。違うの？

冬子 だったらよかったんだけどね（苦笑）本当にあづさの声聞きたくなっただけ

あづさ なんだよー。嬉しいなー

冬子 （笑）

あづさ あたしも声聞けてよかった

冬子 うん

あづさ いつでもかけてよね

冬子 うん

あづさ なにーどうしたの？

冬子 ……

あづさ 冬子？

冬子 あたし本当はさ、

あづさ あ、ちょっと待って。（電話を外して）何ー？ タオルそこにあるでしょー？

冬子 （電話に戻って）ごめん、彼氏が泊まりに来てて。でなんだっけ？

あづさ ……うん。なんもない

冬子 あづさ 本当？

あづさ うん。ってか彼氏できたんだ

あづさ あれ言ってなかったけ？ 同じ課の人

冬子 聞いてないよー

あづさ ごめんごめん（笑）

冬子 イケメン？（笑）

あづさ 全然（笑）あ、ごめん。（電話を外して）だからそこにあるでしょー。お風呂

冬子 でたとこの棚の中ー！ ごめんね、タオル全然見つからないらしくて

あづさ ううん。こっちこそごめんね

冬子 あづさ いいのいいの

冬子 でもそろそろ切るよ

あづさ 本当にいいのに

冬子 明日早いから

あづさ そっか。じゃあまたね

冬子 うん。またかける

あづさ 冬も何かあったらすぐ言ってね

冬子 ……うん。ありがと。それじゃあね

あづさ うん。早く結婚してよー。東京行きたいから

冬子 うん。あづさも頑張っただけ

あづさ ありがとー

冬子 それじゃあね

あづさ うん。またね

冬子 またね

冬子、電話を切ってテーブルに置く。足を抱えて顔を埋める

ひとりぼっちの部屋

・カラオケ

とあるカラオケの一室

秀一郎が back number を熱唱している
それをつまらなげに聴く冬子

痺れを切らし、演奏を止める冬子

秀一郎 ちよっと！

冬子 あのさ

秀一郎 何？

冬子 この曲選びはどうなの？

秀一郎 どうなのって？

冬子 back number、back number、ミスチル、ミスチル、嵐、ミスチル、ドリカ

ム、back number

秀一郎 なんかダメ？

冬子 甘すぎない？

秀一郎 え、別に良くない？ 今日好きな曲歌おうって冬ちゃんが言ったじゃん

冬子 そうだけどさ

秀一郎 冬ちゃんだって、中島みゆき、中島みゆき、椎名林檎、オーヤンフィーフィー、

椎名林檎、松任谷由実、シャズナってなんか暗すぎない？

冬子 シャズナは暗くないでしょ

秀一郎 シャズナは暗くないけど。古いでしょ

冬子 いいじゃん。好きなんだし

秀一郎 じゃあ文句言わないでよ

冬子 でも、甘すぎる

秀一郎 はいはい。じゃあ次は辛いのが入れます

冬子 それでいい

秀一郎、曲を入れる。トキオの宙船が流れだす。冬子、また演奏を止める

冬子 違う！

秀一郎 何で！ 中島みゆきじゃん！

冬子 そうだけど！ 全然わかってない

秀一郎 は？

冬子 そうだけど、そうじゃないの

秀一郎 意味わかんないんだけど

冬子 わかるでしょ

秀一郎 ちよっとカラオケ奉行すぎない？

冬子 (笑)

秀一郎 何でウケてんの

冬子 わかんない (笑)

秀一郎 はあ？

冬子 ごめん (笑)

秀一郎 意味わかんないよ？

冬子 あたしやっぱり秀ちゃんのこと好きだわ

秀一郎 なにいきなり？

冬子 なんが好き。言うこととか好き

秀一郎 カラオケ奉行？

冬子 カラオケ奉行（笑）

秀一郎 はいはい

冬子 あ、あたしだ

・誕生日

秀一郎の部屋

秀一郎が目を閉じて床に座っている

と、冬子、浮かれた格好でケーキを持ちながらハッピーバースデーの歌を歌ってやってくる

目を開けて、笑う秀一郎

秀一郎 全然似合ってねえー（笑）

冬子 おめでとー

秀一郎 ありがとー

ロウソクの火を吹き消す秀一郎。笑い合う二人

・花見

春。どこか川の近くの並木道。桜が咲いている

レジャーシートを敷き、円になり座る冬子、秀一郎、田辺、あづさ
横に置かれたビニール袋にはお酒やお菓子が入っている

秀一郎 結構いい位置取れたね

冬子 でしょー

田辺 お酒もいっぱい買ってきたよー

あづさ いえーい

冬子 ほろよいは？

田辺 あるよ

冬子 ウイスキーとか誰が飲むの？

田辺 俺が飲みたくて

秀一郎 とりあえず乾杯しようよ。乾杯

田辺 そうだな。はい、じゃあ、花見にカンパーイ

みんな カンパーイ

桜が散って四人に落ちる

・三年目の浮気

とあるラブホテル

秀一郎と永野がすぐく激しくセックス（温泉卓球）している

・雪とDVDとコザ

秀一郎の部屋。どこか優しい蛍光灯の明かり

冬子が布団にくるまって、携帯をいじっている

と、秀一郎が帰ってくる

秀一郎 ただいまー

冬子 おかえりー

秀一郎 雪降ってきたよ

冬子 本当？

冬子、携帯を置いて、布団で体を包んだまま立ち上がり、窓を開けて外を見る

冬子 ほんとだ。すごい降ってる

秀一郎、後ろから布団ごと冬子に抱きつく

秀一郎 あったけー

冬子 寒いー

秀一郎 明日積もったらやだなー

冬子 授業サボる？

秀一郎 サボるかー

冬子 DVDとか見たい

秀一郎 ピザとか頼んで？

冬子 最高。ー日中ダラダラしてたい

秀一郎 寒い。ベッドいこ

秀一郎 うん

冬子、少し外の雪を見て窓を閉める。秀一郎、テーブルに置かれたカメラに気づき、手に取る

秀一郎 (カメラを構えて) 冬ちゃんこっち向いて

冬子 ちよっと(照)

秀一郎 撮るよー

秀一郎、布団に包まった冬子を撮る。照れくさそうだが笑顔の冬子

・手紙

二人の部屋

冬子が一人で手紙を書いている

そばには荷物がまとめられ、置かれている

静かに手紙を書く冬子。何を書いているかはわからない

しばらくして書き終わった手紙を白い封筒に入れ、そこへ一緒に部屋の合鍵も入れる

手紙を机に置き、荷物を持って部屋を出て行く冬子

玄関を出て振り向き、扉の写真を撮ろうとするがやめる

そのまま去る

・相合傘

冬の海。砂浜に穏やかな波が寄せては返している

雲はなく青空が広がり、陽の光が海に反射して少しだけ眩しい

冬子 うわー
秀一郎 気をつけて

冬子、波のつくギリギリに立ってはしゃいでいる
少し離れたところからそれを嬉しそうに見る秀一郎

冬子 ねえー
秀一郎 ？

冬子、秀一郎にカメラを向ける

秀一郎 えーかつこよく撮ってよー
冬子 あたしの腕なめんなよ

冬子、秀一郎を撮ろうとする。と、波が来る

冬子 うわー
秀一郎 (笑)
冬子 笑ってんなよ(笑)
秀一郎 ごめんごめん

冬子、木の棒を見つけ、それを秀一郎に渡す

冬子 ねえ、これで相合傘かいて
秀一郎 俺が？ 普通そういうのって冬ちゃんが描くんじゃないの？
冬子 だってあたし撮らなきゃだし。ほら、いいから書いて

秀一郎、渋々砂浜に相合傘をかく

秀一郎 一筆じゃないといけないんだっけ？
冬子 知らない。相合傘ってルールあるの？
秀一郎 なんか真ん中貫いちゃいけないんだよ
冬子 そうなんだ
秀一郎 俺の名前は冬ちゃん書いて
冬子 なんて？
秀一郎 相手の名前書かないといけないんだよ
冬子 詳しすぎない？
秀一郎 ほら書いて

冬子、傘の下、左側に秀一郎の名前を書く。線を挟んで右側に秀一郎も冬子の名前を書く

秀一郎 できた
冬子 いいね。合格

冬子、書きあげた相合傘を撮ろうとする。と、波が来る

冬子 うわー

波が秀一郎の名前だけを消してしまう

冬子 秀ちゃんの名前だけ消された

秀一郎 縁起悪(笑)

冬子 そういう運命なのかな

秀一郎 悲しいこと言わないでよ

冬子 (笑) また書かなきゃ

冬子、また秀一郎の名前を書く

・お酒

二人の部屋

お酒の缶やビンが机や床に転がっていると、秀一郎が仕事から帰って来る

秀一郎 ただいまー。って酒くさ。冬ちゃん？

と、奥から冬子がぐる

冬子 あ、おかえりー

秀一郎 なにこれ。どうしたの？

冬子 なんか飲みたくなつて

秀一郎 いや飲みすぎでしょ

冬子 吐いちゃった(笑)

秀一郎 大丈夫？

秀一郎、台所から水を持って来て、冬子に飲ませる

冬子 なにこれお酒じゃないじゃん

秀一郎 飲ませるわけないでしょ

冬子 なんてーお酒飲もうよー

秀一郎 なんてこんなに飲んだの？

冬子 だからなんか飲みたくなつたの！

秀一郎 こんな飲んじゃダメでしょ。明日も仕事あるでしょ？

冬子 あるー(笑)

秀一郎 なにしてんの

冬子 秀ちゃんも明日仕事？

秀一郎 そうだよ。当たり前じゃん

冬子 休んじやお

秀一郎 休めるわけないでしょ

冬子 社畜だ。社畜

秀一郎 はあ？ ほら、もう寝るよ

冬子 やだよ。まだ飲みたい

秀一郎 もう吐いてんじゃん

冬子 あ、ちよっと待って

冬子、奥に消える。吐瀉音。すぐに戻ってくる

冬子 また吐いた（笑）

秀一郎 何笑ってんの？ ほら水飲んで

冬子 気持ち悪いー

秀一郎 いいからこれ飲んで

秀一郎、無理やり冬子に水を飲ませる

冬子 秀ちゃんも飲もうよー

秀一郎 だから飲まないって

冬子 なんで最近付き合ひ悪くない？

秀一郎 悪くないよ

冬子 悪いよ！ 悪すぎ！ ばか！

秀一郎 うるさいなあ

冬子 気持ち悪いー

秀一郎 （呆れる）ほら、ベッド行くよ

冬子をベッドに運ぼうとする秀一郎

冬子、その手を振り払う

秀一郎 痛！

冬子 ……

秀一郎 なんなの本当いい加減にしてよ

冬子 ……ごめん

秀一郎 ……いいけど。ほら行こう

秀一郎、冬子をベッドに運ぶ
と、突然泣き出す冬子

秀一郎 え、なに？

冬子 ごめん、ごめんね

秀一郎 だからもういいって

冬子 よくないよ！

秀一郎 はあ？

冬子 何にもよくない

秀一郎 いって言ってるじゃん

冬子 ねえ、わかってる？

秀一郎 何が？

冬子 秀ちゃんわかってるの？

秀一郎 だから何が！

冬子 わかってるの？

秀一郎 ねえ！

冬子 なんてわかんないの！

秀一郎 言ってくれなきゃわかんないよ！

冬子 ちゃんとわかってよ！

秀一郎 わかんねえよ！

冬子、黙り、泣く

秀一郎 ……ごめん

秀一郎、冬子を静かに抱きしめる

冬子 ……秀ちゃん

秀一郎 ん？

冬子 ……やっぱりわかってないよ

秀一郎 ……ごめん

冬子 ……うん

秀一郎 うん

冬子 ……

秀一郎 もう寝よう

冬子 ……うん

冬子、ベッドに横になる

冬子 ねえ

秀一郎 ……

冬子 あたしのこと好き？

秀一郎 好きだよ

冬子 本当に？

秀一郎 本当に

冬子 そっか

秀一郎 うん

冬子 ありがとね

秀一郎 ううん。おやすみ

冬子 うん。おやすみ

冬子、秀一郎に背を向ける。秀一郎、少し冬子を見守って部屋を片付け始める
長く静かな間

冬子 ……秀ちゃん

秀一郎 なに

冬子 あたしも好きだよ

秀一郎 うん

冬子 ちゃんとね、好きだよ

秀一郎 ……うん

冬子、目を閉じる。秀一郎、部屋を片付ける
波の音

・ダンス

秀一郎の部屋

秀一郎と冬子がいる

冬子、ベッドの上に体育座りで座っている。とても落ち込んでいる
床に座りそれを慰める秀一郎

秀一郎 大丈夫？
冬子 だめ
秀一郎 死ぬ？
冬子 死ぬ
秀一郎 死なないでよ
冬子 死なない
秀一郎 全然変わってないと思うよ？
冬子 5キロ増えてて変わってないわけねえだろ！
秀一郎 怖い怖い
冬子 男はいいよね！ 筋肉とかあって！ 基礎代謝かよ！
秀一郎 しょうがないじゃん
冬子 決めた！ ダイエットする！

冬子、立ち上がりベッドから降りる

秀一郎 何するの？ 走る？
冬子 楽しくないじゃん。ただでさえ太って辛い思いしてるのに、これ以上辛い思いする必要ないでしょ！
秀一郎 辛くないダイエットなんてないでしょ
冬子 ある
秀一郎 何？
冬子 なにか音楽かけて。踊るから
秀一郎 はあ？
冬子 踊って痩せるの！
秀一郎 壁薄いから怒られちゃうよ
冬子 じゃああたしこのままどんどん太るよ
秀一郎 いいよ
冬子 よくねえよ！ ばか！
秀一郎 バカじゃないよ
冬子 じゃあ死ぬ
秀一郎 メンヘラかよ
冬子 いいからかけてよ！
秀一郎 えー
冬子 かけて！
秀一郎 わかったよ

秀一郎、渋々音楽をかける。ファンキーモンキーベイビーズ

冬子 上がねえよ！
秀一郎 はあ？
冬子 もっと上がるやつかけてよ。ぶち上がりたんだよあたしは！ あたしの好きな曲とかわかるでしょ！
秀一郎 はいはい

秀一郎、冬子の好きそうな曲をかける

冬子 わかってんじゃん

冬子、ノリノリで踊り出す（ほとんど踊れてない）

冬子 あ、これすごいダイエットになりそう

秀一郎 ぶち上がった？

冬子 まだまだ。でも、上がってきた

秀一郎 楽しい？

冬子 楽しい！

冬子、踊りまくる。秀一郎、呆れながらも満更ではない

冬子 音上げて！

秀一郎 はあ？

冬子 もっと音上げて！

秀一郎 壁ドンされちゃうよ

冬子 大丈夫！

秀一郎 なんて！

冬子 大丈夫だから！

秀一郎、音量を上げる。さらにノッてくる冬子

冬子 最高！ すごい疲れる

秀一郎 （笑）

冬子 秀ちゃんも踊って！

秀一郎 なんて（笑）

冬子 夜は長いからさー遊ぼう！

秀一郎 なんなのそれ

冬子 踊ろー！

秀一郎、渋々踊り出す。次第に楽しくなってくる二人

だんだん二人だけの世界になっていく

六畳半のその一室はクラブとも宇宙ともつかない不思議なものになっていく

星とミラーボールが二人を照らす

レコードと土星の輪が二人と一緒に回る

とても幻想的な世界

おしまい